

本日、大學當局の決断の日！

今の弾圧路線を突走るのか。詰合せ路線へ踏みだすのか！

学長・協議会は、二月以来、全然する気のない「詰合せ」という言葉をいつつ、その実、なにもしないという形で、自らの無為・無策・無能・反動性を糊塗しつゝ、黙殺暴力をつらぬいてきた。そして9月も本となり、もはや一部学生の真陥な発言を黙殺するだけでは自らの地位を保つておれないと思づや、一転して田暴力による弾圧路線に転換した。

我々院生・学生・教員が「詰合せ」の最後の機会として田文(タガ)を設定し、申入れたが、当局は10日も回答をひきのばしたあげく直前に拒否した。我々はそれにすいぶん落胆したけれども、自己保身のみを考える大學當局にとって、ごく当然の行動だったのです。田文によると決めた以上なのに、今まで詰合せなどまわりくどい事をするものが「かし」というのが本音なのである。さらに、詰合せを求める我々に、デッテ上げに満ちた事実説明によつて、自己保身の筋托をかくし、あだかむ大学を救つたのであるかの様に偽装し、田導へを正当化したのが、学長所信であり、10.4田導入常駐である。

我々が逮捕されることをもかけて、工学部前に座り込んだ時^復、湘學長が「詰合せ」する場をつくろため田文を入れたのだ。「あとでどんな批判でも受けける」と言つたのは、その場の言ひのれにすぎなかつたのだ。彼は全存在をかけて斗う者にさえミアミアアとワクをつける鬼の仲間人間なわけではないか。

田文が入つてまだ一ヶ月、その間學長は一切詰合せを拒否し、強硬的授業再開のみに枉轍してきた。我々が10月6日文書で協議会田文を要求して以来、いろいろ理由にならない理由でケチをつけ、正式回答をさけ続け、未だ詰合せ路線を堅持しているという幻想をいりまくつてしまつてゐる。

その一方で國家市役所から管理能力なしと判定され、教務職を失なうことのめ忍れて、大學斗争の根本課題である改革、その前提の各層討議を切口にして田文による威壓、卒業追級認定権を力に脅迫し、学生・教員を今迄どろきの授業にしばり縛けようとしている。その踏み縛りの一つが「必ず×切の教養受講履提出強制である。しかも大學當局と古いながら、その内容は學長と数人の臨執による完全独裁体制なのである。そして部局長会議・協議会・教務会は完全に事務承認特權に堕し、一般教務たちはそれ有何の疑念も持つてしない。今、彼らは田文事方に守られて、安心し切つて、その醜い正体を我々に曝してゐる。それは即破廉恥^新としてあらわれてゐる。かくの如き大學當局・教務達がこのままの姿勢・行動をとり続けるかぎり、大學改革は一切ありえない。

我々は改革しつつ授業を再開できる最低必須条件は二のようだ。大學當局の自己批判があり、その前提としての誠実な詰合せであると考える。そのためこそ、我々は10月22日頃を実現のメドに連日田文を提起し、三週間以上にわたり、実現の努力をこなしてきた。そして10月30日、「参加者には自分もありうる」という臨執の固陋に属することなく約七百名の結^集をもつて連日田文要求決起集会を行ない、11月7日正午を期限に正式回答を全學に公示せよと公開質問状を發した。

諸君！ 注視してほしい、今日がその期限なりだ。當局が今の弾圧路線をこのまま走るのか、それとも詰合せ路線へ始めての一歩をふみだすのか。

本日一時 公開質問状に因する集会

工学部玄関前

三時

団交準備会

工学部 B-1 525 (Tel 3380)